

7 水産業

漁業生産

現 状

- 本海面漁業・養殖業の生産量は、海面漁業が8万トン、海面養殖業が10万トンで、産出額は海面漁業が381億円、海面養殖業が146億円となっています。
- 魚種別の生産量は養殖等によるホタテガイが最も多く、次いでイワシ類となっています。
- 内水面漁業・養殖業の生産量は約4千トンとなっており、魚種別ではシジミの生産量が最も多くなっています。

最近の特徴的な取組

- 新漁業法に基づき、資源管理は原則、TAC管理で行う
- 「大学生」や「社会人」等、20～40代をターゲットとして、漁業者との連携により、魚食普及を推進
- 内水面・海面における養殖業の推進（サーモンなど）

今後の推進方向

<水産物の安定生産と漁場づくり>

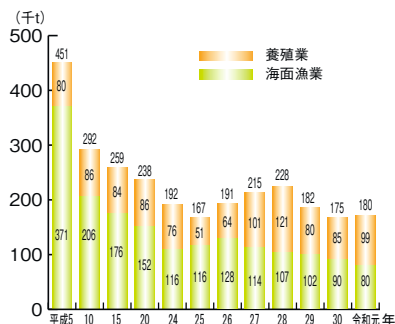
- 重要な水産物の安定的な持続生産
- 漁業者を中心とした漁場環境の保全活動

■海面漁業・養殖業の生産量・産出額（令和元年）

区 作	生産量 (t)	産出額 (億円)
海面漁業・養殖業	179,611	527
海面漁業	80,473	381
養殖業	99,138	146
内水面漁業・養殖業	3,913	

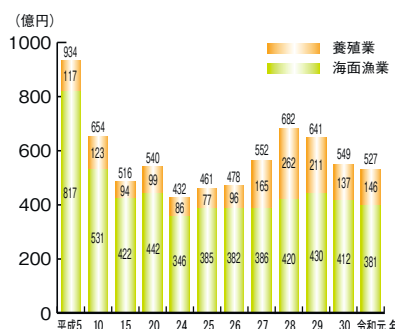
出典：漁業・養殖業生産統計年報

■海面漁業・養殖業生産量の推移



出典：漁業・養殖業生産統計年報

■海面漁業・養殖業産出額の推移



出典：漁業・養殖業生産統計年報

イカ類

令和元年のイカ類の漁獲量は17,350トンで、県内全域で釣りや定置網などで漁獲されています。

ヒラメ

令和元年のヒラメの漁獲量は797トンで、県内全域で定置網、一本釣り、刺網、底びき網などで漁獲されています。

青森県の「県の魚」に指定され、資源管理や種苗放流が行なわれています。

ホタテガイ

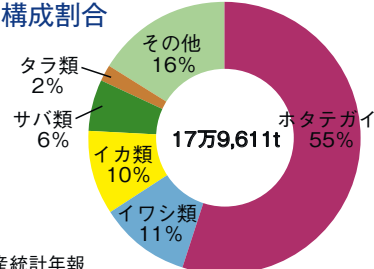
令和元年のホタテガイの生産量は99,265トンで、陸奥湾を中心に養殖や地まき放流で生産されています。

シジミ

令和元年のシジミの漁獲量は2,816トンで、主に小川原湖と十三湖で漁獲されています。



■魚種別生産量の構成割合（令和元年）



出典：漁業・養殖業生産統計年報

資源管理

現 状

- ヒラメをはじめウスメバル、イカナゴ類、マダラなどについて漁獲サイズや重量、操業期間、操業区域を制限することで魚介類の保護を行い、資源を管理しています。

最近の特徴的な取組

- 資源管理・収入安定対策が平成23年4月1日から開始
- 県は資源管理方針（指針）を、漁業者は各種漁業の資源管理協定（計画）を策定

今後の推進方向

<水産資源の適正管理と持続的利用>

- 県資源管理方針（指針）に基づき漁業者が策定した資源管理協定（計画）による自主的な資源管理の実施
- 栽培漁業、水産基盤整備事業との連携による取組支援
- 魚種に応じたきめ細かな管理手法の試験研究強化
- 遊漁者などへの資源管理意識の啓発

■ヒラメの資源管理



■青森県における資源管理型漁業の主な取組状況（小型魚等再放流関係）

魚 種	管理内容	漁業種類	対象地区・漁協
ヒラメ	再放流（35 cm未満）	沖合底びき網漁業 小型底びき網漁業 定置漁業（底建網漁業） 刺網漁業 一本釣り漁業	全地区
マコガレイ	再放流（20 cm未満）	定置漁業（底建網漁業） 一本釣り漁業	
マガレイ	小型魚再放流（15 cm未満）	定置漁業（底建網漁業）	日本海全漁協
ムシガレイ	小型魚再放流（20 cm未満）	全漁法	日本海全漁協
マダイ	当才魚（0才魚）再放流	定置漁業（底建網漁業）	日本海全漁協
マダラ	放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流	底建網漁業	陸奥湾地区
ウスメバル	小型魚再放流 （日本海110 g未満、津軽海峡90 g未満）	一本釣り漁業、刺網漁業	日本海、津軽海峡地区

つくり育てる漁業

現 状

- サケは県内12か所でふ化飼育を行っており、令和2年度は約5,336万尾を放流しました。
- ヒラメは（公社）青森県栽培漁業振興協会が稚魚を生産しており、令和2年は97万尾を放流しました。
- 陸奥湾のホタテガイをはじめ、コンブ、ホヤ、ワカメなどの養殖も行われています。
- 水産生物の生育環境を創出するため、藻場礁や魚礁などを海底に設置しています。

最近の特徴的な取組

- 持続可能なホタテガイ養殖の推進
- サケ、ヒラメの放流効果向上のための技術開発の推進
- アイナメやマツカワ種苗の量産に向けた技術開発の推進
- ホタテガイ貝殻を敷設し、ナマコ増殖場を整備
- ウスメバル等が成長過程で移動する習性に合わせ、藻場等の増殖場や魚礁漁場を、沿岸から沖合までの一体的かつ広域的に整備

今後の推進方向

<積極的な水産資源の増大>

- 本県の海域特性に適合した新たな栽培魚種の研究・開発
- 健全な種苗の生産と適期放流の推進
- 種苗生産、中間育成施設の整備
- 整備した増殖場等の効果調査と機能の維持管理

■養殖生産（令和元年）（単位：t）

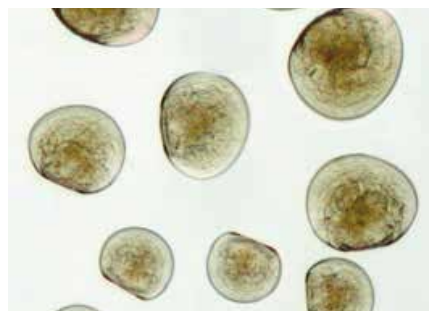
種 類	収穫量
ホ タ テ ガ イ	98,448
ホ ヤ 類	—
ワ カ メ 類	53
そ の 他	637

出典：漁業・養殖業生産統計年報

■栽培魚種（令和元年）（単位：t）

種 類	収穫量
サ ケ 類	2,402
ヒ ラ メ	797
ウ ニ 類	652
ア ワ ビ 類	26

出典：漁業・養殖業生産統計年報



ホタテガイの幼生



サケのふ化仔魚

※参考
成長の度合いによる魚の呼び名
卵→仔(し)魚→稚魚→幼魚→成魚



藻場礁に集まるウスメバルの稚魚（八戸南浜漁場）



ヒラメ稚魚放流

漁港・漁場づくり

現 状

- 県内には、海岸線795kmに85の漁港が点在しており、多くの施設が築造後数十年を経て老朽化しているほか、近年激甚化する自然災害などに対応した漁港づくりが求められています。
- 近年、回遊性のスルメイカなどの不漁が続いていることから、沿岸性魚種の資源の増大に向けた漁場づくりが求められています。

最近の特徴的な取組

- 水産物の高度な衛生管理に対応した荷さばき所等の整備
- 岸壁の耐震化や近年の高波に対応した防波堤の嵩上げ改良など、漁港施設の機能強化対策
- 水産生物が成長過程で移動する習性に合わせ、藻場等の増殖場や魚礁漁場を沿岸から沖合まで一体的かつ広域的に整備

今後の推進方向

<水産物の安定供給に向けた漁港漁場整備の推進>

- 漁港の防災・減災対策や老朽化した漁港施設の長寿命化対策の推進
- 漁業活動の労力軽減や効率化につながる漁港の整備を推進
- 海面養殖を支援する漁港の整備を推進
- 沿岸の水産資源の増大に向け、藻場等の増殖場や魚礁漁場を沿岸から沖合までの一体的かつ広域的な整備を推進
- 水産物の衛生管理対策の推進

■ 漁港漁場整備事例



高度な衛生管理に対応した荷さばき所の整備
(三沢漁港)



漁港から主要道路にアクセスする臨港道路の整備
(白糠漁港)



越波防止のための既存防波堤の嵩上げ改良
(小泊漁港)



沖合の魚礁漁場に集まるウスメバル成魚
(今別東部漁場)